

特57

537

龍木林之助編輯
俳優評判記
全

俳優評判記廿六号

開口一寸御披露

○當評判記は是迄新富座のみ重々著し來り升たるが昨冬十一月狂言の衆機五存トの通り以前演し升たる焼直一の狂言斗り故何と云ても評言少く殊々投書も少く全く一部あまどまり罷升故如何致し升ふやと勘考中の内ふ年も暮升てふり升れば十一月狂言のよん所かく預り又致し升ふやと存升たる處幸ひ千歳座開場も相成升て俳優も顔揃ひふり升れば右御目漸らしい千歳座と土臺すすえて新富座と附録といたしおまけに猿若座の略評もとへ升て御覽入升事又致し升た不相替御求之程願上は諸君方是迄の体裁に組語し升たる事を答め給ふ事なかれと敬白

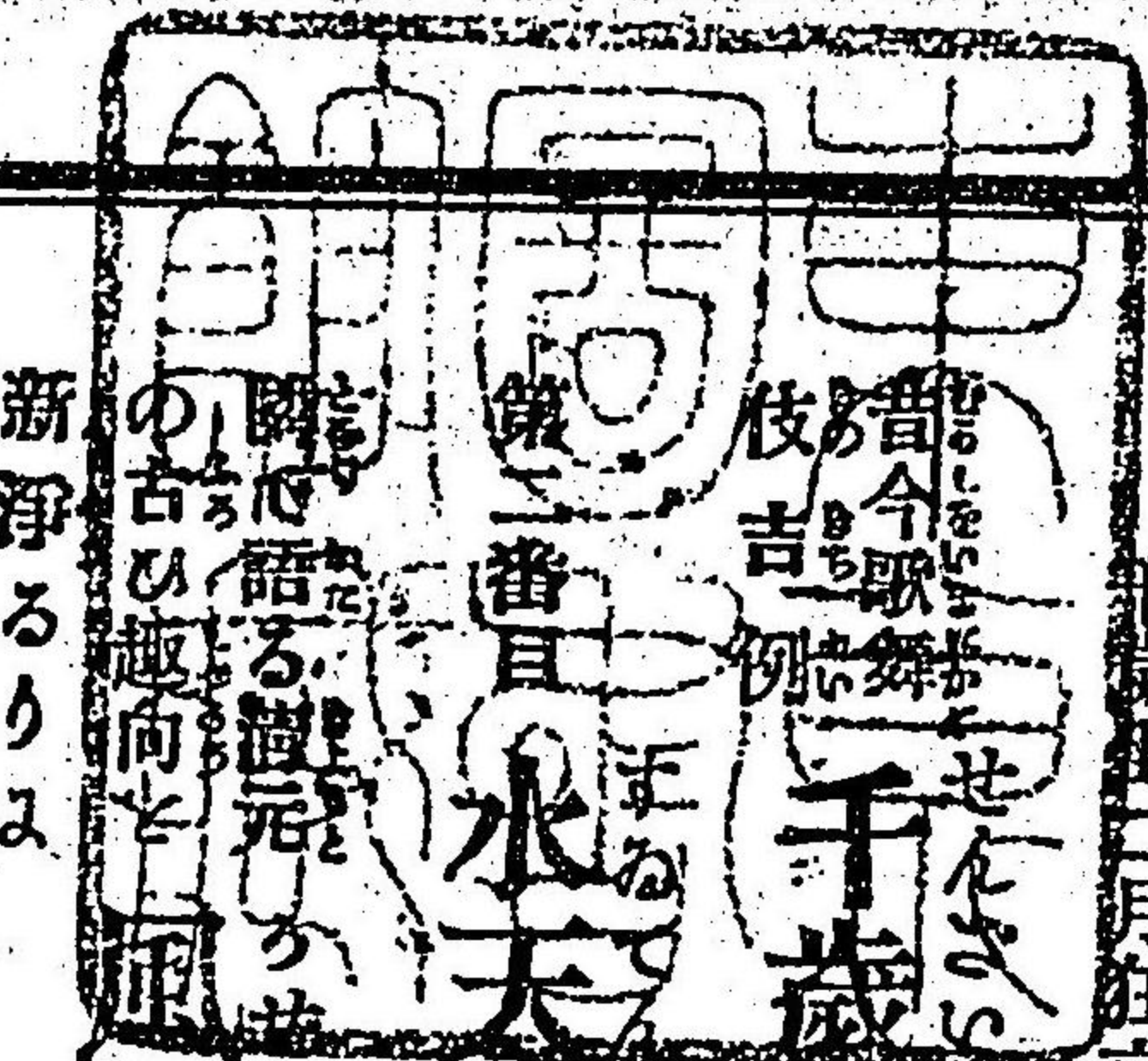
例の通り口の印の投書の評言と御覽を願

○

○俳優位附并見立評の春狂言の昔例より著し升たるが今回の差支の處もふり升れば次狂言の内顔揃ひの開場の節御覽入升れば見功者諸君不相替投書あらん事を伏て希ひ上奉り升

撰者 高須高燕
 梅素薫
 補助 六二惣連

千歳正月狂言總評



千歳會我源氏礎 四番續

水天宮利生深川 三幕

狂川邊の芽柳

漸淨るりよ

清元連中

尾上菊五郎○尾上菊之助○尾上榮之助

市川左團次

○千歳會我武藏坊弁慶役吉野落の場花道の出拵へ万端
 中分ち一義經(菊)四天王花道へ並んで渡りせりふの處自
 分のせりふも成迄の間揚幕の方へ振向て跡と見結てゐる
 處の落人の様見へて能ムり升た○本舞臺へ來り奥州落の
 意見と述る處も沈着てよし先弁慶の此丈ふのまつて中分
 無の出來でムり升た○山伏舞待の場の大先達荒讀鼓と成
 てゐる處へいが栗天窓と罷と生いた好みの能持へでム
 り升た舞待宿へ掛る氣配の處抜目かく請升た○女主人の
 親子の佐藤兄弟の妻子と知れ判官殿に姓名を名乗せる處
 の行届いて吉後に屋嶋の軍さ物語りの處の大手ふて大請

でムリ升た此武藏坊の役のワキ師あるが始終真中お構へ
ていゝるし役も大した役あり(團十郎)の新十八番と云の
が廷升丈の十八番の様見へ升たも全く此丈の大出来故
でムらふとの感伏事でもり升イロ大當りく

○佐藤四郎兵衛忠信役屋島浦の預りみて見せず吉野山の
場君の御跡慕ひ來る場鎧立出の評する處あり君の御性名
を給いらんと望む忠義の處の仕打万端行届き見物一同泪
とこぼし升た是方蹴抜の塔の内へ這入緋緘の鎧出立も變
り横川の覺範(芝断)と大立廻りの處花くしふムリ升た
幕切の見得の目新らふてよつた口室町小柴宅の場
出の笠の好み其外共書巻物も有姿にて古代の様見へてよ
ー○小車(福助)との出合も色氣の薄い様ありしが忠勇の
武士との急度見へ升た○捕物の此丈の十八番忠彌以來毎
度見せらるゝ手に入られた立回り大出来大當り見物のう
ある程は嬉しがり升た口甚誓忠信と云るゝ位名代の道
具あるが淡白も遣つて置れーの請升た○堀川御所門外の
場江間義時(團十)の説諭もよつて立腹を切る處強さうよ
の見くれ升たが何高きさの悪いとの評口義時又向ひ切腹
する間だ御猶豫を願うと云れしがナト弱く敷聞へ升た
何とか強く聞ゆるせりふが有相物

○二番目も萩原正作役油堀宅の場歸宅の處拵へ万端分
無當時劍術流行にて世も出たると云人あて太たぶさの鬘
の有小鬘のいげた好み劍道一さんまいと云人物見へ
て大請でもり升た此場の幸兵衛(菊)の置て行た筆の包紙
より劍術の師匠の子息でい無いと心付までの振事よて
別評する處あり口先年勤の金子市之丞だと云評も有升
ゝがまわ同ト風ある役前されバ此難もよん處ありか○山
岡質店の場輿坐敷よて碁を圍んでゐる處へ小天狗(菊)次
木(松)押込も這入た奴を取て押へる場の熊坂の謡曲を遣
つて余程面白い趣向よて請升た兩人と免遣る説諭の處
よー○ト、兄弟の名乗合も情有有て分無○此役も此丈
も打て付の役されバヤ分のケ處あり○せりふの中よ「芝
居の不學を作者の作物故好ーから老圓朝の咄をどのさま
トを説教より爲も成と作者と卑下して他を譽る事杯の狂
言作者の得意あるが實に愛らる感伏物でもるて
○人力車夫入墨の三五郎役大川端の場上手が旦那くと
小天狗と喚掛て人力車と曳ての出齋幕頃のゴロ付で有た
と云好みて少しいげた天窓にて結髪の手へ能ふムリ升
た車へ忘れて行た合口よ持て來た處小天狗がおれのトや
アねへどシラと切るをナイ忘れたか入墨の三五郎だと云

處大請是より苦役中の咄に成今の堅氣に成たと要次郎が
 改心と進る處兩優共毎度の出合甘い事でムリ升たぞ口車
 を止て腰を掛させ自分がちよいと引掛る古い羅紗の外帯
 の裾の處へ泥のばねが付て居處さどコツた好で有升た感
 心く又三角と云提灯の印も所がらよて請升た○山本町
 の場幸兵衛の發狂を止る役毎度さから斯様さ處の實際を
 見る心地が致一升た拵へも相應して中分無○同トく道具
 替り入水の場裸も成て幸兵衛と助け上て介抱してゐる
 處よて幸兵衛も水を吐せさどして躰を拭製の水を絞ります
 る處行届て中分無口ナット餘り行届き過て下帯の水と絞
 る迄仕あさるが段々の尤もの事さから狂言だのら下掛り
 の事無もがさと思ひ升る○始終深切も取扱へるゝ振事
 大當りでムリ升た

○曾我の對面も朝比奈の役先方今此丈の物の様に思ひ升
 がた大心よ曰くがムリ升た鶴の丸の着附着流にて三本
 太刀を着てゐられ升たの市川流の朝比奈と見へたり古例
 の有事か知んが朝比奈の役の眞の荒事での無三本太刀の
 如何る物と存升爰らの古實を調べて見度存るて口投書お
 朝比奈千平だと云悪口もムリ升たが是らも無理の無評よ
 て朝靨と見せて間の無事故目先が變らず夫故斯様を悪口

が有物と見へたり着流して無ヤハリ鶴の丸の素袍と着ら
 れたら宜ろうよ大きき遺憾でムリ升た

板東家橋

○一番目も内大臣宗盛役拵への昨年の(團十郎)の重盛と
 云好み成程是の尤もの作り重盛も内大臣あれば同一官服
 の筈あれど今回の宗盛の暗愚の大將にて酒色あふけり政
 事も頓着せぬと云性故(團十郎)の重盛との少一拵へを違
 へてナト劇場と用ひて生ぬるく作られた方が見え處のら
 愚將と見へて宜ろうよ教經の諫言するのが可笑様でムリ
 升た餘り實際過るも面白味が落い物でムリ升るて

○龜井六郎重清役吉野落の場又山伏姿の場共拵へ万端中
 分無別して爰と評する處も無役あれば評言畧す

○長沼六郎致治役の靜御前法樂の舞も度柏子の役と勤る
 大名おして外に見せる業の無役併一度柏子の如何様難お
 も打る物の様成難物あれば別して評する處さ一立派ある
 役者と並べて見せる趣向あれば外よ云草あし

○利生深川への巡查多尾尾保守役幸兵衛入水の場三五郎
 に差圖して幸兵衛を介抱する處拵へ万端正眞を寫されて
 評よ一せりふ遣ひも國訛りあて請升た幸兵衛の濡た着物
 を服せ自分の外帯と着せらるゝの大出来○此入水者を見

物して居る仕出しの人數大勢の(子役を受けて凡廿人程)能
行届いて取合せよく見物を嬉しうからせ升た實は是らの譯
も無事ながら更みせまりて感伏折く此人數を制して追
散す處さどの本物を今見る心地がー升たのやうな事の大
劇場で無ければ見られ升ん大感心く

○對面曾我八幡三郎行氏役拵へ万端紋切形よてよし爰
と云て譽る仕打も無役されど先はまり役よて難きー

市川團右衛門

○千歳曾我小柴入道淨雲役昨年新富座でーた如法寺村
の技摩丈山と若附の好み同ト事よて坊主天窓での有見る
と直み見物の丈山の様だと升た爰ら此入道の御納戸
無地は限つた事も有引ね何ぞ目先と變て作られたら宣
ろうよ誠は不注意を善でゑるて仕打の此才得意の敵役よ
て請吉深切さかーお忠信と泊てこつろり梶原景季方へ内
通せー處返つて不實を責られ娘の出世の望みもぐりこま
ふ成慮懸味あつて能さされ升た○後娘よの自害され我
身の義美處の都と騒がーた咎よて追放に成備ひ處まで此
役の随分能してゐられ升た

○増尾權の頭忠役の山伏姿にて判官殿の供として出る
役顔勤ひ迄よて狂言さしされ評もさー

○氷天宮よ金貸因業金兵衛役の(積十郎)の代言人と兩人
つるんで千歳樓の場の例も有ふれた女郎ふらるゝ役前
小ひさ(源之助)との出合の先年見せられた雨夜星の説教
者願哲と小夜衣(菊五)との体裁にて坊主天窓が毛が生て
ゐると云迄よて目先が變らす併し毎度手よ入てゑる故面
白うムり升た○山本町の場は幸兵衛よ高利の金と貸付此
取立よ無慘の事とさるが幸兵衛發狂の種よ成と云役さる
が此丈近年仕上腕前を顯り十分よこさされ評ケ能ム
り升た

○對面よ梶原平三景時の五苦勞はまり役よて評よし

尾上松助

○一番目に梶原三郎景久役靜御前よ思ひと掛橋勢を以て
口解たる處返て靜よ耻しめらるゝと云役此丈の事されば
抜目さくこなされ升たが爰と云當り目もなく通常のこと
あり拵へ万端のヤ分無

○熊井太郎忠基役偽山伏と成て判官ふ付添の役顔と勤へ
るまでの事よてさーたる事さし

○利生深川に次木傳次役千歳樓の場商人よ化て要次郎と
尋ね來り娼妓小松を買引付の處おのーみ交ての振事一同
悦ひ升た後人柳をして盗人附合のせり處の處の何しおふ

合手の梅幸あり此場の實は面白き事でムリ升た感伏く
 ○大川端の場におもさへ病之の難儀と救ひと、高橋迄送つて遣うと手を引ての引込爰ら此丈又打て付の役をあれ
 甘い事く○大詰山岡裏手の場小天狗が小ひめの遊て來のよ困り整の晩よ一と云と一寸恨みを云處さど大出来斯様を輕い事の方今類るしく口拵へも大音寺前で追劔として來た形だと云れ升が好み相應して大詰
 ○二役差配人世話やき與兵衛役幸兵衛内の場幸兵衛が金兵衛は慘酷を目に達たと聞いろく云論一つ身の着物のあれが掛合て取歸して來て遣と出て行るゝ處の深切さ
 甘い事でムリ升た○着物と取歸して歸つて見ると幸兵衛が發狂してゐるに驚ろき取さえる騒ぎかゝ新みて天窓をぶたれる可笑まで實に此差配人の大出来でムリ升た○川端の場幸兵衛の助つた處へ來りお巡り又逢本人引取の手續迄迄振目あく本統の様でムリ升た○山岡の番頭(八百)の咄よ金兵衛が召捕り成たと聞夫で目も痛飲が下り升たよとゲートと云るゝ處のナト當込過升た少見物の大詰で有升た○山岡質店の場幸兵衛親子を引連て地主へ禮よ來たる處深切な差配人の性根を見せたるウガサかと有て大詰初中後共與兵衛の申分無の出来此又甘味の

市川八百藏

方今此丈の事で坐り升ふ感伏く
 ○對面會我よ北條時政役の五苦勞く
 ○千歳曾我よ片岡八郎經俊此役の吉野山より山伏舞待迄義經の四天王の一人おればお側さゝす振事もさしたる事無れバ評する處さ
 ○氷天宮よ山岡の番頭治兵衛此役もさして仕草も無れど拵へ万端より振事まで宜はまり升て評よ
 ○大谷門藏一番目よ吉岡喜三太此役の山伏舞待の場へ出る役よして評する所さし○二番目よ萩原の下男空藏此役の此丈よはまり役篤實を親父にて乳貫ひの幸兵衛を世話する役よて此丈の事おれバ手一をいにこおされ見物の大詰で坐り升た
 ○市川猿十郎衆徒河倉法眼役一ト通りあり○二番目よのもぐり代言安井三百藏大出来なり
 ○中村荒次郎武藏有國役さしたる事さし○衆徒醫王禪司一ト通りの出来○二番目よ萩原の門弟田沼傳八役大出来乳貫ひよ邪見お事と言た奴が後に惘然お咄して聞泪とこばす處の(翫太郎)と兩人大出来でムリ升た
 ○中村翫太郎越中の盛國役さしたる事無○荒法師も一

ト通りあり○二番目も萩原の門弟畑中泥六出衆兩人共
拵へ万端好み申分無

○市川團八(右衛門督清宗役)たる事無○佐五兵衛女
房かためり出衆吉此丈の得意

○門藏丈より五人の衆會我對面も並び大名は五苦勞何れ
も立派もて貫目が見へ升た

○坂東橋次(梶原の臣)○佐藤の臣共さしたる事無○二番
目も洗たく屋のの、の能仕られ升たが山本町邊の裏店の
に、のチト寄麗過たり男の能せへの

○尾上竹次郎(衆徒脊高禪司)たる事無○千歳樓の若
イ者稻藏役出衆よ

○市川升藏(佐藤の臣船田三郎)○千歳樓の若イ者出衆升
た

○中村芝壽郎(佐藤の臣黒川七郎)さしたる事無

○市川左伊助(飛脚久助)ト通りあり○のり賣ば、アお
百役大出衆拵へも好み能見物の目に付升た此丈の折く
變り物で當られ升感心か人では坐る

○市川小半次(遊び人かつをの仙太)ト通りなり
此外相中の衆評の略一升

○尾上榮次郎(嗣信一子鶴若)○尾上榮之助(幸兵衛娘か

迄も兩人共評よし梅幸丈養子の由能仕出しの子達末頼の
母一も存升五出世を待升く○榮次郎麻疹もて榮之助が
代りの所是又麻疹にて市川好太郎が代りて有升た

○坂東竹松(忠信一子鶴若出衆升た中途より麻疹もて市
川九が代りを勤められ升た又九が麻疹もて中村小福が
代りて坐り升た

尾上菊五郎

○千歳會我瀧氏礎に九郎判官義經屋島浦の預りにあり
吉野山よりの出此義經ト云大將の智略も勝れ氣轉の利た
人の様も思われ殊も女にも素早さ性と聞へ一は大将故
先(梅幸丈)も持て来いと云はまり役されバト通り見た
所貫目と云申分無の判官殿と見られ升た○蹴拔塔よ安坐
せられ身の薄命の述懐より落付先の評義と仕ふる、所
の何となく愁を催得一升た是より忠信欠付來り姓名と給
り殿りあさんと願ふ所兄嗣信の屋島もて我も代り討死さ
し今又汝も姓名ともづり討死させんも本意あらざと主従
の情十分に見せて愁歎の所越升丈と五兩人の事あれバ
毎度ながら見物を泣せられ升た大請く○歌舞伎新報よ
は是より先谷合もて難戦の場が有升が抜に成たと見へて
見せられ升んでした○山伏攝待の場花道の出し脚の君と

男は仕立召連一件を云時「能々男も見ゆる櫛左りの足を先へ遊ぶ様と申付置しがと云せりふが有升が此事の俳優中女形立役の平生の心掛にて稽古も出る事故斯云せりふも有升が真の義経公も一たら万端物も心得た有識の大將と感心の仕り升るて此場の此丈もいさ一たる狂言も一貫目と見せる升りみて十二人の山伏の内ふていかに御大將と見定められ御茶坊主の目當もされる所故評する迄もさく副坐頭の威權備へる大長と譽るより外記立る事無

○畠山次郎重忠役静御前又法樂の舞を進めお出らるゝ所の素袍の好松葉色と紫の片身變り先年敷皮の重忠の時(三升)も用ひられしが風流みて宜うムリ升れた同トく舞の場よての横笛の役素袍も白も更られ一の至極よし口笛の中々能吹れ升た堪能の事でムリ升

○水天宮利生深川は小天狗要次郎實の萩原良次郎役序幕千歳樓二階の場横濱通ひの商人と云拵へ請升た娼妓小ひさ(源之)小松(登美松)小菊(萬三郎)合手も遊んでムる所の此丈の十八番ちよいくとウガナを云たり或の悪口を云たり狂言の脚色も掛らぬ捨せりふみて見物と嬉しがらせる持前のイナセの所の面白い事でムリ升たのやうさ

事の外も類無ふしぎく○思ひ掛さく茨木傳次が尋ね來り甘く調子と合せて衆の居無あるのを待てどうした傳次ト盗人附合に成所の氣の變り目ふしぎ愛へ小ひさが歸り來り「要さんちよいと耳打するも驚ろさ早く身支度とて歸る時「コウ小ひさ一番大すまいで送つて呉と云所大請く○大川端の場今車を下りたと云氣持みて二重廻りと引掛駒下駄みて雪を踏で上手よりの出五分も透ぬ拵へでムリ升た悪者三人(左伊助)幸水(小半次)がおもき(菊之)をとらへて強姦せんとしてゐる所を助けかゆさよ夜歩行の子細を聞金を恵んで遣る所行届た物でムリ升○此子を傳次も送らせて遣り歸らんとする所へ人力曳三五郎も呼留られ忘れ物が有と合口を出されると夫リヤア我のトやアねへとシラと切所例もの狂言のギツクリ杯と仕あさらぬ所大請是より苦役先で馴染の三五郎だと云れ左團次と昔咄も成所の五兩人の出合大得心く○三幕目山岡雲手の場斗らす吉原と逃出した小ひなも逢所手輕て吉傳次にせき立られよん所さく小ひなも上總屋へ行て待てゐると歸す所吉小ひかに半天と貸と云れて貸て遣り是より文羽の頭巾も顔と隠し盗人に成好み手順よくて感心傳次を足掛りに塙を越所の輕い事にて小天狗と云

る、盗人の様に、斯き事をさせたら天下の敵なし。○同ト
く奥座敷の場萩原と山岡が碁を圍んでゐる所へ白刃と突
付強談せんとすると萩原に取て押へられる所熊坂の謡曲
と合方より面白き事で、ムリ升た下、兄弟の名乗合よさ
る所大請く。

○薄命者筆賣船津幸兵衛役油堀の場花道よりの出拵へ万
端中分無髪の様も注意仕られた好み吉抱子の泣き困り
あぐら通り掛り萩原の下男空藏も見咎められ貰ひ乳も困
る事を語る處を、新造(一)調に聞れ、斗らず乳を貰ふ事
も成内へ遣入、處吉口火鉢と貸て下され、此火に當りあがら
煙草と吸れ升が煙草入の口ツつて、升たが喜世留が立派過
た機も見請升た併し喰たり喰きんだり芋や粥もて命とつ
あゐでゐる貧乏人が煙草の少く奢り見へ升か。○子供も
乳を香す間も薄命も次第を咄す處、此丈の事あれば情合十
分お届いて涙をこぼし升た此咄し、金澄圓ト八丈島の一
ツ身と貰ふ處能ムリ升た又禮がてらみ筆と反古紙も包ん
で置て歸る處より。○二幕目内の場花道、氷天宮へ納る碁
の額と買て歸る處、口此額、娘の盲目の直る願込と昨日恵
れたお禮とに納るとの事、よて人形町のかつ文で安く負
て下すつた、あら上物の額と買たと云れ升が黒塗の縁の額

の大きさに不手財でムリ升ふヤ、ハリ極下等の繪馬の方が釣
合が能うと思われ升極々のあばら家に立派な額、何高目
立て懸うムリ升。○因業金兵衛と二百藏に折角恵まれた壹
圓金と八丈の一ツ身を引上られ、我身の薄命を悔んで子供
等と殺して死ぬると云場。○此貧乏も隣で語る清元の淨る
りがばまると云、随分目新らしい趣向でムリ升た義太夫
の出語り、打合せあて梅幸丈、兩人の子供を遣ひ抱子をか
せよ、て手一をいに、振事で見せる大世話場、發狂する下地
ど、ハヤあがら余り長過て、ナトだれ氣味でムリ升た。○併し
是迄見無發狂の趣向、彼のヨリ人の事故十分、工風仕られ
よと見へて、實に面白い事で、ムリ升た感服く、口長刀形お
成た、何うさ、と持て、桓武天皇九代の後胤平の知盛亡魂あり
ト一寸謡曲の振、成處、余りはまり食て聊さかお茶番の
氣味合、見へ升た。○散く、あばれ回つてお祭りだくと
額と持抱子を引たくり抱へて花道の引込まで見物の手を
拍て悦び升た大當りく。○道具替り入水の場、最早三五
郎も救ひ上られた處にて、巡查の保ご、預り居体、此場の古
今の評判、あて万端實地を見る心地にて、感心し升た。口本人
の水と咄く位深みへはまり、様子あるよ抱子が無事でゐ
る、余りふいぎ過るのと思われ升、是れ先よ萩原の、新造

が抱て乳を呑せてゐる物故其儘わいて自分斗り飛込だ方が宜い。三五郎も天窓のらすぶ濡ふれば赤子の嘔苦しんだ事で有升ふ(さー)でそこが夫水天宮利生深川と云處(あるほど)○地主の番頭來り慈惠金と呉る今日新聞の配達諸方よりの恵み金を持參して來ると云趣向目新らしく見物一同ドット譽る聲暫く静まらぬ程でムリ升た今回の二番目の評判高く大入大當りも成りも全く音羽屋のお骨折山岡の見世へ禮よ來る處の最早身形を改め奇麗も成てゐる場さしたる事をし○曾我の對面ふ十郎祐成此役の故梅毒翁の得意物もて人も知つたる大事を役されば如何と思ひ升た又返り年功いのにも和らのみて分無の大出來大手柄とヤベでと

尾上菊之助

○久々休坐よて堂成事のと案事升たに當坐開場式よりか顔が見へ升てひるき連の大安心祝ふて一ツ升ふシヤンくくさて二番目大川端の場幸兵衛娘おもきにて眼病の直るやうと榎木の稻荷へはだ一參りとするト云處花道よりの出接へ万端分無口此日の親父も雪降ゆえ筆商ひも占傘をさしてゐられ升たが此子も又親父の歸らぬ内もお參りも出たと云ふ古傘をさしてゐられ升たが薄命者の

内も古く共傘二本の有過升から此子の方の雪の事故手拭でも冠つて傘無の方が返つて憫然さか深く見へ升ふに爰ら少し不感心と思升て○愚者も出逢知義の處を要次郎に助けられ金壹圓貰つて歸る處吉○内の場の觀世の台手にて愁歎の場今回の中く評よくお手柄でムリ升た又山岡店の場眼病が少し直つたと云處身形も能あり中く別品でムリ升の大出來く

○對面に(多賀之丞)の穴と喜瀬川の龜菊にて勤められ美しい事でムリ升た此丈も今一息調子が直つら分無でそがふい事之情一をい突込て遣れませ懸落の來る調子も今の間も直り升ふイヨ音羽屋の若旦那

中村福助

○一番目に小柴入道娘小車役拵へ万端分無いかも品格有て京上臈の風情見へて吉忠信の許より飛脚來り討死せーとの便り故愁歎の處へ忠信の尋ね來りしに驚ろさ幽霊での無かど疑ふ處足を改め見るあどけなき拙梅至極能ムリ升た○誠の忠信ありと知れ悦び響應處中々能こそあれ升た親入道も眞實も取扱ふを計略とも知らず俱く止めて馳走してゐる處豈斗らん鎌倉方へ内通をし討手の來るに悲しみ自害して死ぬる迄一點の分無こそされ上評

でムリ升た

○見金剛丸實の卿の君役山伏攝待の場何もさして狂言の無れと只品格を見せる斗りの處いのにも義經の北の方と云位置備のりチ分無の大出来

○對面は化粧坂の少將役美しくしい事でムリ升た只顔勘ひ迄の事あれば評する處あり

澤村田之助

○一番目ふの堀勘六の妻えがらみ此役の静の前は差添て出て法樂の舞を進める役めて別して狂言もあ一拵へ万端チ分あ一品格も有て評よ

○利生深川ふの山岡の女房おふみ此役もさしたる仕草無只女房ぶりを見せる迄あり拵へ等好みよく押出たる斗りにて十分に直打見へたり

○中村仲太郎山岡のでつち丸吉役小利口を口を聞て滑頭と叱られる子僧役毎度あから出来し升た

片岡我童

○源氏礎は能登守教経役三立目ながら大層能い役よいて宗盛を諷言の爲よわざと大酒と過一軍さ評定もわやあ事と述て妾朝顔は戀慕と見せ宗盛の女色と裁と云強勢なもうけ役なるが荷の勝たと見へてヤンヤと當り目の見へ兼

た様でムリ升た

○駿河次郎經清役吉野山の場山伏攝待の場ども別して仕草も無役あから顔勘ひよて立派な事でムリ升た

○梶原源太景季役寺院へ宿陣してゐると云道具の好みあて廊下と見せたる處面白一小柴入道と肝入作五兵衛同進めて忠信の忍んで来り一を偽り止置いと注進も来ると節義を立て是を断り兩人を散くよ耻のいめると云役前よて否身あく十分よ手強くてあされ上評であり升た拵へも好みよくチ分あし此景季役の當りでムリ升

○二番目よ山岡富三郎役質店の旦那拵へ万端チ分無きつはりとして大出来萩原正作入り来り拵と圍んでゐる處へ盜人が這入と云筋めて此場が結局よある處よて趣向面白く上評でムリ升た此丈近頃メキ腕前を上ふれ當込ツ氣が無かり大劇場の俳優も成れ升た位置の見物の眼が曇らぬ鏡で有升のら本人のら愛敬の落る事など云ぬ方が利口のと思ひ开心掛給へやく

○對面は鬼王新左衛門役大詰よ友切丸持參する迄の役よて見る處もムリ升んの拵へも紋切形よてチ分無役前もはまつて上評く

○市川新藏一番目三立目よの小松待從忠房役さしたる

事あり○杉目小太郎武綱役の山伏十二人の内の一人顔を並べる迄の役あるが此人数の内へ加はり一五出世と云べしお任せ油断なく強勉が肝要

○板東喜知六千歳樓の遣り手お作さしたる狂言あり○土肥彌太郎役さる事無○對面に並び大名五苦勞

○尾上登美松侍女此花のさしたる事無○千歳樓の娼妓小松の出来升た美しくしく有引付の体裁の見物を悦ばせ升た

○市川萬三郎侍女藤あみの一と通り○千歳樓の娼妓小菊の容色も吉見物の目も付升たお任せ「三百藏の事を法律く」と法律の觀工場へ行た様だとい大請でムリ升た

○中村歌女之丞小柴の召仕お一づ二番目より萩原の下女おせん二役共下女ながら何れも上出来でムリ升た

澤村源之助

○一番目三立目に宗盛の愛妾朝鏡役古歌を残りて自害の處相應にこきされ升た拵へも官女風よてチ分無此役の(中村のほる)の役ありしが俄又大坂へ行れ升たお付此丈も回り升た役なり評よくてお手から

○忠信の後家麻生役拵へ万端好當よて吉仕打もさどやか

よてチ分無の出来でムリ升た

○利生深川千歳樓の娼妓小ひな見せ先の場金兵衛(圓衛)が立腹して歸らふと云處へ二階より下て止る處拵へ万端チ分な大層美くい事でムリ升たいろくさだめても聞入ず歸るくと云故稻殿履物と出してお上スカナイヨとはし子をトントンくと欠上る處の大請く見物一統嬉しがり升た○同トく部屋の場小道具の詠へお至るまで念入ふて能口行燈も小ひなと書て有處おと請升た

○此場の梅幸丈合手故一ぱい引立大層器量を上て見升るお任せく廊下より欠込来りちよいと要三今内証でど耳打をして早くお歸りよと簞笥の引出しを雑物を出して遣り勘定なんざア堂でも能のふと立働らさの處火急の中よて女の情を捨す惚てゐる人をのばふ精合都て大出来でムリ升た口要次郎が部屋を出しおよ「小ひな一番大すましますよとして送つて呉と云時アイと仕掛をさばいておまして送る處大賛成く○秋香丈此頃の強勢腕前を上られ万事浮雲つけが無あり升たの芝居好連の大仕合遅く面白い事を見る事と楽しんであり升○三幕目山岡裏手の場お吉原を逃亡して来ると云拵へ頭巾と冠り天窓のたるま返しよ結び能好みでムリ升た此場の梅幸丈との出合も透

間あし一寸別れる時半天と借て着る思ひ付も吉捨せりふ
万々大詰く先此媚妓の役の近頃での當りてムリ升たお
手柄

中村 鶴藏

○一番目お肝入佐五兵衛役小柴入道と計つて小車と景季
よとめ込んと工んでゐる内忠信が入込だ事を梶原よ注進
する案内として来りて返つて景季にはね付られると云
役あるが道に此丈の事あれば一寸た處に甘味が有升の
さゝある役よても無故喰足らせ此回の腕前を顯は役も
なく誠に残念でムリ升た本人も定て残念でムリ升ふ回
合せあれば是非もな

○鷲尾三郎經久役も山伏の天窓數見た様な物にて評さし
○對面よの梶原平次景高五苦勞く

板東 ちう調

○一番目への工藤の奥方郡の棄役人品も拵へも相應して
ヤ分無靜御前よ法樂の舞と進める役あて外よ仕草もあ
○嗣信の後家淺香此役もばまり能拵へも品格有てヤ分無
夫の討死の物語りと聞く間も抜目さく出來升た
○二番目よの萩原の妻おむら役能御新造ふりてムリ升た
幸兵衛の子よ乳と吞せる處も堂へても女らしく大出來で

ムリ升た此場の拵へも相應してヤ分無○幸兵衛内の場へ
出てムる處の拵へ万端餘り立派過て堂も劍術遣ひの妻と
の見へず華族の奥方の様でムリ升た一体此丈の野暮よ品
の有性故堂かすると道入違ひを仕あされて出來過る事が
ムリ升併し仕打よのヤ分あ

市川 海老藏

○一番目屋島の浦の預りよ成佐藤の臣田島三郎の見せず
伊勢の三郎義盛役の吉野山も山伏攝待もお立派よのムリ
升たがさして評する處な

中村 芝翫

○一番目よ横川禪司覺範役吉野山の場拵へ万端立派よて
ヤ分無先此丈へのはまり役あれば大出來忠信に一刀の下
よ切下られ太刀と振んとした儘落入處宜つたく
○工藤前経役法樂の舞よ鼓の役美事あ手の内でムリ升た
是丈の事よて外よ仕草も狂言も無れば評言あ
○常陸坊海尊役山伏攝待の場役者揃よて大立派此丈が並
んでムると何となく舞臺よ貫目が付の感心事よてムリ升
○對面會我よ工藤左衛門前経役都て紋切形古風と捨す先

方今(團十郎)(菊五郎)の兄弟を向ふへ廻し高臺へ上つて見悪く無と云ひ年來賣込だ大立者ふーきと云も愚ありでござんせう○前の方今派の活歴史の工藤對面の劇場傳來の工藤のやうに二機分れると云腹おれ 妙でムリ升が其邊の何とムリ升ふの何の然れ堀越寺島南 大將も一目置と云大兄イ株成駒屋の親玉く

市川團十郎

○親玉の評ふ第一番お承知と申度い佐藤三郎兵衛嗣信の役あり屋島の浦の場が預り成升て御目よ掛り升んが今回の脚色の佐藤兄弟の討死と見せて大詰に佐藤の邸へ山伏攝待よ成と云が大眼目の狂言おれバ嗣信忠信共に眼前よ討死する所を見物の婦女子よ迄見せて置が狂言の山作者の苦心も爰らふ有物と想像し升事成よいかある理由が有の知んが此場と預りよ仕られ升たやらかやうお事の芝居好連の残念がりくやうがつて居升事故此丈の評にて肥立升事にムる(イヤ又存外此丈の不注意で無も知らんが)五免いへ謝罪く

○江間の小四郎義時後今回たつた一役の立役おれバ暫時の舞臺よて喰足らすおしい事でムリ升た拵へ万端抜目さく請升た忠信よ理解の所此丈の事おれバ能と譽るも冗お事々權ある事のお茶の子く口忠信お切腹と進め義時はよて見物せんと云れーが堂も優長らく聞へて悪つた何と云權も有相な物併後ふの直され升たの

○義經の妾靜御前此役の初日前より區中の評判おて待ており升た最初花道よりの出拵へ此丈古さを温ね苦心いふれた物と見へ左もさうお思われや分無(さう調)(田之助)はトめ並居る侍女が代るく舞の事を進め舞させんとするを物にこのつけ舞まとする間が大層長く爰の斯無れおあらん本文おれバ詮方無れど何分にもチトだれ氣味でムリ升た○法樂の舞の場道具ふん廻と最早舞てムるの能ムリ升た道具の好みも目新らくて大請口さて思ひさやかのの舞衣装でムるて白地の水干に織縫の好み(此縫の有名な縫秀の細工の由)縫の好みも何となく古雅よて前へ藤の花の造り花をさし成程斯る物の共煙よ巻れ升たの我輩の何かなーに昔よりお馴染の男舞の風が能おと思われ升拍子の水上男舞の元祖の様も思つてゐる升金烏帽子お太刀を佩金の幣と脊負緋の袴と云拵へが古來より靜御前と心得てゐ升たよ大きお當がいつれ升た○成程投書家の仰の通り記者も御同意でムリ升が方今活歴史流行の折柄おれバ何の新奇を競ふて目先と更ねバ活歴

めき升んと見へて例の温古癖の團洲なれば余程心配して
 れて持へられた物と聞升たのら先斯な物でムリ升ふてさ
 て舞振の何共云ぬ程の甘味にて見足ぬ程まで感あたへて
 ゐる内よ又舞あがら道具とぶん廻るといふ一ぎよ妙でム
 り升る○吉野山の歌と吟とられ升聲柄の堂ても女での
 無男の聲音で有升たの不感心く○又元の道具も成てか
 ら梶原(松助)に口解れ一を瞞り理と責て梶原を取て押へ
 る所出来升た○何分前後の狂言の長うムリ升たが肝心お
 舞の誠に織か斗りよて面白間もムリ升んでした殊に静
 の十九歳とか云女おりと聞升たがいかに三升美くく
 ても十九才トハ(ナット)とつこい又年の事と云と傳坊君
 よ小言と聞升ぞ)彼是ハ中物の法樂の舞の大評判でムリ
 升た何れへ行升ても此高評でムリ升た感伏く
 ○佐藤庄司後家教信尼役山伏攝待の場此狂言の大詰み
 て謡曲の攝待を原本よ一て脚色たる物あり永く市川家の
 狂言よとつておきの積と見へて歌舞妓新十八番の内と名
 題と上られ升たが折角のシテの教信尼よ狂言少く弁
 慶がシテの様見へ升たの遺憾な事でムリ升た○義經と
 卿の君よお湯を差上るが此狂言の山よ一て義經主従とギ
 ウと云せる所あるが此件と嫁孫よさせて後奥より聲うけ

て二人の孫よ手を引れての出持への白茶の襦の上へ黒の
 袷と掛たる好み面白ムリ升た是より佐藤兄弟の母と
 名乗君よ姓名は明一下さる様と理を申上る所り答へ升
 た○弁慶の屋島の物語りより(芝翫(家橘(我童)と代る
 く忠信討死の物語りを聞る、間も透間なく思入十分よ
 答へ升た是より後の襦を明させ出羽の武士とあらひ置
 一事と述て家くの紋付さる類を飾りたる所と見せ二人
 の孫を相手に物語りよ成所の面白事でも有升た○山伏衆
 が此家へ遣入頃の日も西山よ傾くと云せりムリ有升のら
 夜陰と見ゆる燭燭の用意さる物よ心得てムリ此丈よ
 の堂云物の口せりムリの内お出物の國と云れ一の高尙にて
 能ムリ升た○何に一る大層な大舞臺よて物坐中出勤との
 立派な事よて大當りでムリ升た
 ○曾我の對面に五郎時致役日本國中へ鳴響きたる十八番
 のお家物久々よて見物一升て何共能心持でムリ升た當新
 舞臺斯く大入大繁昌よ成升たも成田屋の大手柄外も類も
 荒事の本家本元と敬つて筆とさ一おく

新富坐十一月狂言

○飛弾内匠諸國咄○時雨雲村井破傘○散柳堤初霜

○中幕 紅染時平家世盛

○市川左團次(伊賀平内後與惣兵衛役此狂言の猿若町守田坐よて孝悌譚六十餘集ト云名題にて出升たが新狂言也り此役の(關三十郎)あり一廷升丈ふの(とまり)役故チ分無十石峠の鷺の場を見せて坂本山王の場預りも成升た故跡の老年の與惣兵衛にて是亦得意の親父形よて評よ一奇渡一谷底の場より雛取の場迄チ分無同じく内の場も爰と云て譽る處も有ま一なんだが難もあし

○家老堅田左京役の毎度手よ入られた家老敵チ分無

○近江の源五郎役内匠の後追廻すさまの細にて久藏内の場ハ笠と証據にねぢ込て無理よ泊て貰處よし後よ久藏よ二股越送引出され殺されんとする處と闘つて逃歸り殺よ鉄炮にて久藏を打殺す處意味有て大出来此二役も(關三丈)の當處でムリ升た

○中幕よ清盛入道淨海潮狂言よ(仲藏)の役廷升丈にて(とまり)役あらんと思ひ一に堂言物の上杉謙信の方へ近いとの評方今活歴史流行の時節故余りヨリ過て不評を物ダ出来升接へも奢りと極めた人故又處でも大層立派な作つた

方が清盛めき升の○又賑り様も烈火どの行す何分分別遇たやうよ見へたり先清盛の不感心の方あり

○早のり三次役の新狂言仲藏の役にて大評判此丈今一息でムリ升た

○紙屑買久八役の親の傍け有て大出来藤掛内の場よて以前の主筋成事が知れて驚いて草履をこいた儘上へ上つて据たの(能)ムリ升た又金を悪んで遣る時籠の中より古扇を出してのせる(請)升た○淨るりの場花道の出見とぼくく見せる積りの重ね袖をしてふるふ下坐よ(接)の笛を聞せて(ゐる)堂の按摩の機でムリ升たあれ腕組の方が宜いか

○坂東家橋(譽田)酒造頭役の山王の場預りに成記者の不見栗津主水の役の先此丈よはまり役故チ分無爰と云て譽る處もな一持へ万端相應にて難もあし

○若徒會平次役旦那の和子と驚よ取れ言譯あよ切腹して死ぬる役さしたる事さし一ト通りあり

○中幕よ(右)大将宗盛役番御一の(我童)の役今回の宗盛も一通りのと思われ升接へふ於て(や)分無

○二番目よ(伊勢屋)千太郎役サアお出る才斯云物に掛たら方今此丈の事番御一の時の(中村)福助の(評判)ありし

見劣りもなく出来升た

○市川團右衛門(作事方石山軍藏例もの敵役手の物)後接摩丈山と成て越後へ下り雪中(如法寺村の幕切へ窓か)かすすべり込役大兵故分もなくおのしふムリ升た

○中幕(難波次郎經遠役)請升た憎味が有て立派(て)吉(中)二番目(紙屑屋六右衛門)先年(仲藏)の役(麥升丈も)篤實(中)能こなさき升た

○尾上松助(堅田)の若徒(幸藏)實(悪徒)信濃(幸藏)若徒(の内)いさしたる事(無娘)お照(の)供(を)て敵(内匠)と尋ね(越後)へ下り(雪中)よて(癩)と偽り(おてる)を抱(口説)成(惡徒)の性根(と)顯(す)處(ぢ)つと(斗)り直打(で)ムリ升た(後主水)よ討(る)迄(さ)したる事(あり)

○市川八百藏(多田)藏(人行)綱(役)清(盛)の館(へ)反(逆)人(を)内(通)に(來)る役(さ)らく(と)こ(を)して居(ら)れ升た(が)源(氏)の(大將)よ(直打)が(無様)に(思)れ升た

○大谷(門藏)粟津(主膳)の討(れ)役(一)通(り)なり○中幕(よ)王(馬)判(官)盛(國)役(例)の透(間)無(遣)れ(分)あり○二番目(よ)長(庵)の(妹)鏡(十)兵衛(役)此(丈)の(田)舍(者)を(仕)あ(さ)ると(例)も(落)籍(家)流(の)田(舍)詞(を)遣(れ)升(た)あ(れ)余(慶)事(あり)平(生)の(せ)り(路)よ(て)十(分)あり(され)ば(上)州(の)人(も)三(州)の(人)も(同)ト(罷)り

よて甚だ聞苦一ムリ升

○市川(猿)十(郎)獵(人)狸(の)入(藏)役(の)出(來)吉○二番目(あり)と(る)附(と)け(定)役(拵)へ(分)無(長)庵(の)内(に)居(り)の(人)物(万)端(大)出(來)で(ム)り(升)た

○中村(荒)次(郎)種(時)の(權)兵衛(役)喜(知)六(の)お(の)んど(可)笑(身)が(澤)山(ム)つ(た)さ(う)ある(が)山(王)の(場)が(ぬ)き(成)殘(念)○二番目(あり)家(主)雷(の)五(郎)兵衛(出)來(よ)

○中村(翫)太(郎)雲(助)の(さ)したる(事)無○二番目(よ)紙(屑)買(は)る(入)役(身)形(が)さ(れ)い(過)た(様)なり(淨)る(り)觸(紙)屑(の)趣(向)の(請)ま(した)

○市川(團)八(一)坂(東)橋(次)五(兩)人(共)紙(屑)よ(りの)女(評)よ(一)拵(へ)も(好)み(よく)大(請)で(ム)り(升)

○尾上(菊)五(郎)坂(本)山(王)の(場)の(預)り(成)譽(田)家(御)殿(よ)り(の)出(勤)よ(て)飛(彈)内(匠)の(役)此(場)の(さ)したる(事)無(堅)田(左)京(同)道(よ)て(石)山(の)觀(音)月(見)の(場)此(石)山(寺)の(道)具(は)是(迄)も(無)立(派)を(物)お(て)目(を)驚(か)し(升)た(左)京(の)謀(反)の(次)弟(を)聞(諫)言(す)る(と)左(京)の(聞)入(る)ふ)り(して)打(果)さん(と)切(掛)る(故)不(得)止(立)廻(り)も(成)左(京)と(討)て(捨)る(處)出(來)升(た)口(梅)幸(丈)虫(の)性(と)で(も)云(べき)か(双)方(白)眼(合)の(せ)わ(い)處(も)て(後)見(の)來(る)と(待)す(敷)物(を)ち(よ)い(と)片(付)る(杯)の(仕)事(ハ)甚(見)苦(一)ムリ(升)

ど
 ○加賀の國横谷村久藏内の場、源五郎とさけて爰へ泊り
 込迄の事なれどさしたる事あり○飛彈奮渡しの場、源五
 郎も出逢奮と切落さるゝ迄にて直も慕愛もさしたる事な
 し惣体道具立も手間取とらよて都て幕間長く明と直も又
 幕も成又引張れする事故飽が來て不感心でムリ升も大道
 具も程の有事と思われ升○谷底の場、與惣兵衛親子も介
 抱請助る處もしてさしたる事無幕數多く仕切ぬどかよて
 處々ススキも成たる處多く残念でムリ升た○越後與惣兵
 衛内の場、養生中お登田の殿より言付られたる白木の鷹と
 彫て居と云場、み娘れまがど能中に成ちよいと色合の處
 も有升が此丈の躰も、無と云役前（書卸大谷友右衛門の
 役へ）よて感心の見處もあり○主水が入來り紛失の鷹の
 掛物、手も入彫刻の木彫の鷹へ眼の玉を入ると近江の方
 へ向て飛出すと云筋あるが此眼を筆と持て入る様子故墨
 あるべし是の彫物の事故小刀で仕られたら如何と思われ
 升た
 ○獵人珠數玉の久藏此役の今回の新案と見へたり拵への
 相應してヤ分無ですが袖無も茶の羽織も丈が長くて人柄
 が能過て見へ升た此場の内匠を追廻て泊り込だ源五郎と

ふたまたこゝへ引出して内匠を見のがさ事と頼んでも聞入ざる
 より珠數を切て討果さんとする處、嶋藏と千太の招魂社
 の出合の機も見へ升たがめつ相面白事でもムリ升た是
 より源五郎の氣と更て頻りな詫入逃歸りて後に挑灯と見
 當り鉄炮で打るゝ迄の凄い程能ムリ升た此場が一番目中
 での見處でムリ升たト、谷底へ後ろ向も落入處大請く
 ○中村福助、道十郎伴道之助役能出來升た
 ○丁子屋抱小夜衣役美くしい事でムリ升た此二役ともよ
 新狂言よ（坂東三津五郎）の役でムリ升た
 ○尾上登美松、曾平次女房おぬひ役さしたる事あり後お
 まがの乳母も成てゐる處、預りも成見す依て評さし
 ○中村歌女之丞、長庵妹おそよ役随分迷惑な役もて勤
 むくかろうが少し苦過るやうでありし
 ○澤村源之助、左京娘おてる役一ト通りおがうヤ分無の
 出來親の敵を尋ねて歩行道中あるお髪飾りのされいなる
 の如何か是の芝居だから仕方が無と云へば記者閉口
 ○中村鶴藏、中幕に瀨尾太郎兼康役難波瀨尾ト云の清盛
 の惡を助たと云無道人なるべし（圓右衛門）と一對よて能
 とまり升た大出來く
 ○二番目も中間はげ松此役の此丈新狂言の時も勤めた役

進に年功甘い物でムリ舛た下帯と幾度とあぐべ直す事杯の本真の物でムリ舛た

○坂東えう調一平内養女おえが實の曾平次娘おえが役寄渡し谷底見初より内の場迄分無可愛らしい娘にあられ舛た書卸(菊次郎)の役なり一が(えう調)丈評よくお手柄○久藏妻おたみ石山寺願禮出立の役さ一たる事さし同トく内の場分無出来され舛た

○市川海老藏一中幕お新大納言成親役新富坐お目見得以來の出来でムリ舛た人品のはまよりも能思入も抜目さく大出来で有舛た拵へモ分無

○雇中間づぶ六も出来ま一た再度誤りよ来ておの字盤一も町事に延る處口まめにやられ舛た此調子とはづさず勉強あるやう新り舛

○中村芝翫一村井破傘又人宿貝坂の忠藏役書卸の時の長庵を見留る處の赤羽の道具替つて貝坂なりしが今回の赤羽よて見留事に成て舛たから有馬の邸へ行た歸りだとか云せりよが有舛たガヤハリ先の通り貝坂の方か無理が無く道十郎貧家の場もさ一たる狂言さ一拵への兩度とも分無通常なり

○市川團十郎(中幕平家世盛)此狂言明治九年五月中村座

よて牡丹平家譚の内新十八番として出升が書卸よて評判ありし今回の道具衣裳等よ至る迄都て其時代を摸し高尙よ拵へられ一故トント繪巻物でも見る心地が致し升た○師光入道西光の此前(時藏)は役よて能してゐられ升たが其時より再度する時の自分が遣て見極と目を付てゐられ一由よて今度三升丈勤められ升たが古今獨歩の面白さ清盛よ向ひおそき氣もなく大言を吐き惡對をつくと言此丈に打て付の役大出来でムリ升た難波瀬の尾の拷問を請る處手強て能ムリ升た

○小松内府重盛此役の前代未聞後世よ又と有まトき團洲一手捌き他よ類と真似人の無演し物先年も感伏でムリ升たが今回の又走と拵たど云出来此狂言の團十郎を退たら故人重盛より外仕手の有舞と思ふヨリ沈着工合から品格のら弁舌まで抜目さくどこへ點の打處もさく實よ恐れ入升た○清盛諫言の處の自然と情を感じ思はず泪をこぼし升た感伏く

○二番目の村井長庵の故人小團次の當狂言よ一て今以て目先よちらつさるる位其後誰とて愛の穴へ行俳優もさく夫限よて有一よ斗らず三升丈演され升たが一体長庵ト云醫者の元醫者の陸尺をしてゐた奴が見様見真似で敵醫師

ん成たので故人米升にのそつくりと云はまり物ありが
 三升丈での人品が能過ては殿腎が零落したと云様に見も
 るだろうと噂さしてありがはたして其通りよて堂も感
 心し升んでした殊も堂云物か一向狂言とす随分面白く
 無事でムリ升た遺憾く○内の場より赤羽殺しの場迄の
 さらくど遣て仕舞再度の内の場も千太郎より請取た金
 の事とほける處も身が遣入す千太郎と打擲する處も
 (稗十郎)もさせて自身見えてムるばつり(尤憎体での
 有たが)併し圓十郎なら幾の斯するだろうと思われ升た
 口故人のウガナ杯を云て見物を嬉しがらせ升たが一向そ
 んな事もなく極々淡白生まドめも長庵で有升た○以前演
 ました時の吟味は兩度共評判でムリ升るも今回の見せぬ
 處が多く一向脚色も分らず夫故面白味も薄いと思われ
 升甚だ残念な次第でムリ升る

○道十郎後家かりよ役此加役を仕さざらうとい夢も未知
 升んでした此丈の事されバ仕打万端や分あく随分悲しう
 ぬムリ升たが書御(菊次郎丈)の當番されバ今一息不承知
 赤處が有升た中間はげ松のせりふよ「コウ見や能年増だ
 せぬ」云奴を一番みて見たら堂だろう○つぶ六ヤイそん
 事事と云て呉る虫づかはらアと花道の引込ふ云れ升

たが本人のナト色氣がさ過て餘處の事を言てゐる様で
 ムリ升た○久八との出合の遣に締つて能うムリ升たイヤ
 近頃何でも遣て見る氣もなふれて妙な物と出され升が
 中よの不評も物も出る事でムリ升る

猿若座申十一月狂言略評

○新舞臺越後立讀 ○北條九代名家 功

○市川團十郎 北條相摸入道高時役 田樂の場此狂言の市川家新十八番の内として演され升たが中々目新らしい物よて高時の拵へ面白い好みよて吉最初藤と上ると上手の柱と後ろあいて横向の居り方も珍らー、衣笠お舞をまひせる時皆に望まれ催馬樂と唄ふ處古風にて吉○大陸摩の出語りど上手の竹本の出語り何れも柿の三升の上下よて立派でムリ升た○長崎次郎(勘五郎)の言上よて犬と殺せー浪人を死刑にあさんと云付る處へ大佛陸奥守(權十郎)出て諫言あすを聞入さる處へ秋田城之介入道(仲藏)出て諫言する再應理とせめて諫るよ得心する處のいりよも暴悪の大將と見へ升た○一同這入た後すさまじき雷電よ燈し火消るを待女共よ云付燈火と付させんと次へ遺跡へ上り天狗下り來り高時に田樂法師と見せ是より六名の天狗高時ととらへ田樂を指南よ事よせあふる處面白い事でムリ升た口ステ、コ踊りだと云悪口もムリ升たが余程古風を踊りと尋ねられたとの事でムリ升○散々あぶつて天狗一同揃つて天王寺のようれい星の歌あて踊つて後の襖へ田樂よて消る次の間より衣笠はトめ城助之入道出て

來り高時を介抱とる虚空にてドット笑ひ聲とる是と見上げて口惜がる處にて幕○随分目新らしい新案よて感心な事でムリ升た

○本間山城左衛門直家役の主人大佛陸奥守の不興と蒙り詫入ても聞入さるより父直高も腹乞して討死とると云役なり父妻に別れの愁ひも分無大館次郎(鶴藏)との立廻りもよしト、切腹まで大働きの事でムリ升た

○新田義貞太刀流一の場い愛と見て見る處もムリ升んが役者を並べて見せる處あて何れも鎧出立故五月人形だといふ悪口のムリ升た○是も無理の無事よて汐の引方と見せる眺へにて一段高く一た上よ皆く並んでムる故正面から見るとトント臺の上よ並べた様お見へ升た口義貞の鎧兜の正眞の物の由に聞升たが手に取て見ねバ分り升んいか成古實の有物やらん毛鞘の太刀を佩た上よ又太刀を一腰帯てムつて此太刀を投込れ升たが二通り太刀と佩てムるも如何一腰の兼て投込覺悟で佩てムる様お見へ升た併し是等の我輩無學者の知ぬ事故斯様おのや者の評の可否の存ト升ん只見た目の論でムリ升○先の資本の掛つた程よヤンヤと云へ升んで一た

○片岡我童(西尾正作此役)綱賢公の近習役よして預り

の薬籠を試合の間小倉美作も預けたるは丸薬をすり替はれたると知らず君に吞せ夫が爲綱賢公毒死さるれ我身も疑ひ掛り切腹して申すると云役○此試合は江戸三十三間堂され切腹の場は國表の我邸よての事あり尤も三十三間堂の場へ出たる役人次第へ残らず出る脚色されは余程其心みて見ねは混合して解し兼るなり○此丈へはまつた役故申分無只切腹の幕切に例ものくせにて顔をヒカ

くくどさざるのが申分其外は出来よ

○三河守綱國公此役は俊臣の進めよて吉原通ひとさされたるは合方の三浦屋若紫(福助)が元臣下の娘故目害して君の廊通ひを諫めると云脚色よて本心も立歸る殿様此丈にはまり役故申分のケ所なり

○田口官十郎此役は小栗の讒言よて諸士が足輕に下られ見附番よてゐる所へ小栗の若殿が登城と聞(權十郎)(丸藏)の同士と謀り態と供先と騒がす所役者揃よて見物の嬉しがり升た併し是丈の事よて後狂言あり

○荻田主馬此役は家中の諸士がお爲方と旨嚙を立徒黨をあすと馬上よて取鏡めに出る家老役相應よこゑされ升た拵へ方端申分無はまりて感心く

○植木屋金五郎實は關口三郎兵衛此役は水府公の探索方

みて植木屋も化て小栗の邸へ仕事は道入庭の樹木の根を掘た所毒死の罫籠と見出し是を持って内へ歸り我も惚てゐる親方五平次の妹おつるをだまし脇差と借て逃亡する所を御陣屋下よて退手を取巻れ証據物と水府の鑑札と松の根方へ藏し、召捕り成假牢へ入られ拷問も逢ても白状せぬと五郎助(權十郎)來り五平次が召捕られ難儀してゐる故是を助る爲我も實事を明して呉と言れ我身も取除逃れぬ所と覺悟し五郎助の勇氣と見込水府の探索方ある事を明し証據物を江戸表へ届ける事と頼む處吉是を番屋よ寮てゐた中澤藤兵衛(仲藏)が命と捨助け出すと悦んで江戸へ立歸り水府公へ証據を上ると言大した役是も此丈よはなつた役故難するケ處あり大出来あり

○岩井紫若(小栗美作奥方)かかん役此丈の跡に有奥方役故申分無我邸へお客も來る殿の愛妾お吟の方と夫美作と茶室よて出合ゐたる處を見出し嫉妬おてお吟の方を教し我身も夫に殺さるゝ處一ト通りの出来されど申分無

○五郎助女房實は五平次妹おさく此役は吉原三浦屋も新造としてゐて五郎助も馴染請出され高田へ來り植木屋の女房も成てゐる筋新造のら世話女房されは此丈のお手の物故評よ

○中幕より直家書さるるさみ武家女房これもお持前通常也
○北條の侍女ハ五苦勞

○中村雲藏（鳴瀬作十郎此役ハ小栗の頼みて關根彌次郎を待せしめて鉄飽よて討んとして返ておのれが討るゝと言役此丈の事あれハ端役おが甘い處ガムリ升た

○中幕より大館次郎守武此役ハ極樂寺合戦お本間直家に討るゝ新田方の侍ハ大將勇猛の仕打有てヤ分な

○中村鶴五郎（關根の若徒作藏）岡島主水○片山左内何もさ一たる事さ

○中村かほる（小性豐岡紋三郎役美くしふムリ升た
○五平次妹おつる金五郎も惚てムる役よて金五郎よのせ
くれ兄の脇差と出して遣る處ぼんやりと出來升た

○中幕より北條家の侍女綾櫛五苦勞

○市川九藏（小栗美作役三十三間堂の場正作がお預りの印籠を試合中預りながら毒藥と取更る處手品の甘くこそされ升た人品もはまり能家老敵との急度見へ升た○同ト

く郎白雲閣の場白裝束よ成て切腹一様どして諸士を討る處出來升る○後弥次郎が切込んで來る時余り安ッボジてヤ分あり事よかま付逃る人おがら何との工合の有相な物

○お吟の方部屋の場一寸色模様の處今少一色氣がは

性來のよん處な一○茶室の場お吟の方を殺したおかかんを殺す處ハ手強くてよ

○足輕與惣次此役ハ小栗よ追下られた諸士なれば三人サ合せ供先と騒がす役顔揃ひよて評よ

○植木屋五平次ハさ一たる役でさ一併一此丈の顔みれば舞臺立派よ成てよし拵へも透間さし

○中幕より本間刑部太夫直高役愛と云て配立る程でも有升んの何高不評少し安ッボジ見へ升た

○篠塚伊賀守重長ハ立派

○貴門光國卿此役よ付て曰く有です年代ハ此騒動何れの年の記者不心得ながら中島坐で（我當）ハ老人で仕られ升たが此丈ハ中年の作りあり何れが是の非の存升んが團十郎も老人で見せたり何でも年代お抱いらす貴門様とさえ

云は老人の様に思ひ升故ヤハハ老跡が能と見へ升今回の中年勤め盛りの年配で見せられ升たが堂も貴門様もみ升ん様に見へ升た愛らハ如何奇物の識者の名評を待のみ

○中村勘五郎（銀之助改名あり足輕正木段助後ハ大野次郎兵衛役評よし水戸家下館の場よて繩を解れてうら尊大に構へる處甘ふムリ升た其外ハ通常あり

○市原半九郎役ハ一揆の諸士さ一たる事無

○中幕より直家書よりさみ武家女房これもお持前通常也
○北條の侍女ハ五苦勞

○中村霍藏（鳴瀬作十郎）此役ハ小栗の頼みて關根彌次郎を待ぶせしめて鉄飽よて討んとして返ておのれが討るゝと言役此丈の事あれハ端役者が甘い處ガムリ升た

○中幕より大館次郎守武此役ハ極樂寺合戦ハ本間直家に討るゝ新田方の侍ハ大將勇猛の仕打有てヤ分なり

○中村鶴五郎（關根の若徒作藏）岡島主水○片山左内何もさしたる事あり

○中村かほる（小性豐岡紋三郎）役美くしふムリ升た

○五平次妹おつる金五郎は惚てムる役よて金五郎よのせられ兄の脇差と出して遣る處ぼんやりと出來升た

○中幕より北條家の侍女綾機五苦勞

○市川九藏（小栗美作役三十三間堂の場正作が預りの印籠を試合中預りながら毒藥と取更る處手品の甘くこそされ升た人品はまじり能家老敵との急度見へ升た○同ト

く郎白雲閣の場白裝束よ成て切腹一機として諸士を討る處出來升た○後跡次郎が切込んで來る時余り安ッボジてヤ分あり事よかま付逃る人おのら何との工合の有相な物
○お吟の方部屋の場一寸色模様の處今少し色氣がはし

性來のよん處なり○茶室の場お吟の方を殺したおかかんを殺す處ハ手強くてよ

○足輕與惣次此役ハ小栗よ追下られた諸士なれば三人ヤ合せ供先と騒がす役顔勘ひよて評よ

○植木屋五平次ハさしたる役であり併し此丈の顔あれば舞臺立派よ成てよし拵へも透間をし

○中幕より本間刑部太夫直高役爰と云て配立る程でも有升んが何高不評少し安ッボジ見へ升た

○篠塚伊賀守重長ハ立派

○黃門光國卿此役よ付て曰く有です年代ハ此騒動何れの年の記者不心得ながら中島坐で（我當）ハ老人で仕られ升たが此丈ハ中年の作りあり何れが是の非の存升んが團十郎も老人で見せたり何でも年代お抱へらす黃門様と云え云ば老人の様に思ひ升故ヤハハハ老跡が能と見へ升今回の中年勤め盛りの年配で見せられ升たが堂も黃門様よみ升ん様に見へ升た爰ら如何奇物の識者の名評を待のみ

○中村勘五郎（銀之助改名あり足輕正木段助後ハ大野次郎兵衛役評よし水戸家下館の場よて繩を解れてくら尊大に構へる處甘ふムリ升た其外ハ通常あり

○市原半九郎役ハ一揆の諸士さしたる事無

○中幕お長崎次良高貞此役の高時又犬殺一の各人言上の役さしたる仕打も無役ながら申分無

○市川八百藏) 郡七九郎役の一揆の諸士さしたる事無

○山野邊主税此役の向島よて大野治良兵衛一件取鏡めの役さしたる事無れどとまり役に吉

○本間の臣得行弥四良役評よー○畑六良左衛門役の太刀流しの並び人形にてさしたる事無

○此丈(權十良)病氣の節代りと仕られ升たが記者大佛陸奥守を見升たが感心そのの今日始てだと言ふ後ろに付人も無諫言と立派演られ升たの大請でムリ升た

○岩井小紫) 愛妾お吟の方此役の大殿光長公の妾あれと都合よつて大殿の出る場を見せられん故何の物足らぬ心地がしられ升た此丈の事あれば色氣澤山と行升んでいたが物堅いお妾で不義の仕度もなく見へ升た

○女占ひ越路實の玄祐娘おさき役女占ひよ成てムる處何となくとまり能妙よ能ムリ升た後藝者風よ成りてから格別の當り目あり

○中幕よ高時の侍女の五苦勞

○中村福助) 下野守綱賢公役三十三間堂の場美作の毒殺よ逢るゝ處さしたる役も無れど人品とまつて申分無

○三浦屋の抱若紫此役の綱國公の合方ありーが關根弥次良の頼と云殿の我主筋の若殿と聞忠義の爲に自殺おて君の廓通ひの念と斷と云筋の太夫おて万端宜出來升た拵へ都て申分無能仕打てゐられ升た

○中幕に高時の妾衣笠役拵へ万端人品有て申分無高時よ舞と所望され君の催馬樂と唄ひ給ひ舞んど云處よー高時うたつて舞に成處至極の大出來でムリ升た舞振もえとやかよて請ました

○市川權十郎) 關根弥次良此役の大層お能役よて此狂言中一等のもうけ役あり白雲閣の場にて鳴瀬作十良の首を証據に提て小栗美作と討んど切込來り大勢と相手お立廻りの處の氷湖傳の行者武松と八犬傳の犬坂毛野と混合したと云役勇しよ出來升た美作と討もろー白壁へ血よて次節を書殘し立退處申分無口こー元(此糸)を誤つて手と負せ奥へ踏込時くら暗の氣持にて手を先へ出さざり足で這入れ升たが盲人の様で見苦し、愛らの處でも力身おて這入たらムリ升た○吉原堤諫言の場預り三浦屋の場若紫へ綱國公廓通ひ斷念の事と頼む處のさしたる事なし○虚無僧曉月と成てムる處もさして見せる處無向島の場々水府下館の場も一通の事あり分て爰と可否する處

あー先彌次郎の初中後共出来吉

○荒川房右衛門役足輕と成て下馬先を騒ぐす處顔揃よて
評判でムリ升た併し跡み狂言あー

○植木屋五郎助役吉原の場さーる事無五平次内おきく
離縁の處一ト通り之假牢の場金五郎は義理詰よ身分を白
状さする處振事出来升た

○中幕み大佛陸奥守貞直役高時へ諫言の場評よー接へ万
端申分無○極樂寺合戦の場本間直家の勘當免一別れの處
能こさされ升た大將の貫目十分有て分無

○千秋樂前に成て病氣よて引れ升て八百藏が代りを勤
められ升たひるきの御連中の残念がり升た事あり

○中村仲藏一西屋正左衛門の老人役毎度あゝ手よ入ら
れた物眼前忠義の爲は悴よ切腹させる愁の處應へ升た

○大熊帶刀此役の大手先の騒動よ取鎖めよ出る家老役さ
したる仕草も無れど分なし

○鍵番中澤藤兵衛此役の五郎助と金五郎に逢せ番小家お
て聞てゐる處金五郎の水府の探察方と知り牢と明て落
遣り自分譯よ腹切て死すると云はまり役故分無腹へ
刀を突込時襦袢の上のら突立て跡で前と明るの随分いけ
ぞんざい仕方あり

○中幕み秋田城之助入道延明役高時へ諫言應へ升た接へ
も素袍の上へ袷袋と掛たの面白好みでムリ升た○舞鶴
外丈高年あから坐頭の大役五苦勞事でもり升が至て健
やのよ五出勤とい目出たーく

投書家人名

感	甘能	淺草千成	壽喜田
立見	小僧	墨堤道人	万年樓
琴通	舍	筑地米倉	馬加太
井山	人		

明治十八年四月廿五日出版御届
價銀拾貳圓

編輯兼團扇
出版人 蜜柑 問屋 植木林之助

印刷所 京橋區銀座貳丁目拾二番地
愛善社



